

泌尿器科後期研修プログラム [研修施設(専門医教育施設)]

診療科 泌尿器科 氏名 松木克之

臨床研修

- ◇ 外来：週に1~2回、指導医と共に外来診療をしてもらいます。最初は新患の病歴聴取・診察から始め、再来患者の経過観察、入院患者の外来経過観察などまで係わってもらう予定です。外来患者 1,200名/月 外来日 月~土(原則 午前のみ)
- ◇ 病棟：原則として常勤・指導医全員と共に主治医グループを作り、その中で入院患者全員(場合により減らすこともあり)の指示など診療行為をしてもらいます。
入院患者数 月平均 10人
- ◇ 手術：外来小手術などの執刀から始めて少なくともTUR-Bt・TUR-Pなどの内視鏡手術を術者でしてもらいます。腎摘出・前立腺全摘は或る程度までは術者として執刀してもらうことを考えています。ESWLも出来るようにしてもらう予定です。
手術件数 月平均 12件 経尿道手術(TUR-P・TUR-Bt・TUL・膀胱碎石) 開腹手術(前立腺全摘・腎摘出・腎盂尿管全摘・膀胱全摘+尿路変向) 体外衝撃波による碎石などが経験できます。
- ◇ 検査：超音波検査 120件/月、前立腺生検 5件/月、膀胱鏡(軟性) 25件/月、RP 2件/月などの検査を施行しておりそれにも参加してもらいます。
- ◇ 当直：救急当直(小児科を除く全科対象)が月3回程度有ります。

以上のプログラムは卒後3~4年目が念頭のもので、本人の実力に合わせて外来・病棟・手術を担当してもらい、5~6年目には独り立ちできる可能性のあるところまで判断力・実行力を養ってもらう予定です。

教育システム

- ◇ 症例検討会、講習会：1ヶ月に一回勉強会(各科の先生の講義)。CPCが1~2ヶ月に一回施行されています。泌尿器科としての症例検討はしていませんが、適宜・随時やるようにしています(外来で迷う症例や入院治療困難症例など)。その他、初期研修中の医員と共に月2~3回の勉強会やBLS・ACLS(ICLS)などの救急関係の講習会に参加してもらう予定です。

- ◇ 学会発表、論文発表：最初は年3回の地方会の発表から始めて東部連合総会・総会と発表する機会をふやしてゆく予定です。更に泌尿器科専門医になるための研修コースへの参加を奨励します。なお限度額はありますが学会や研修への参加費・交通費・宿泊費は補助がでます。

報酬：3年目 500,000円 4年目 545,000円 5年目 590,000円 6年目 635,000円
(ともに月額税込み 各種手当付き) これ以外、月30時間を限度に時間外手当や当直手当などが付き、賞与も付きます。

福利厚生

- ◇ 休暇・休養：原則として4週8休ですが、休日オンコール月2回程度あるため若干減ります(日以外の平日に一日休日あり)。夏期休暇6日間です。当直明けの勤務態勢は考慮しますが、病院としての規定はありません。
- ◇ 食事・宿舎：職員食堂があり、予約など必要な時間帯はありますが、3食摂れます。宿舎は付帯家族に合わせて用意可能です。

施設環境

- ◇ 机・ロッカー：机は医局内にありますし、ロッカーは狭いものの手術室内にあります。
- ◇ 図書・インターネット：種類・数とも少ないものの一応図書室あり、インターネットは端末が公のものが2台あります。その他個人持ちのコンピューターを当院のラン経由で繋いでいただいても結構です(費用は請求されません)。

研修システムの特徴

一般市中病院ですのでいろいろな疾患を診てもらうことにはなりますが、尿路性器腫瘍・感染症(性病を含む)・尿路結石・尿路閉塞疾患・泌尿器科救急疾患が主体になります。その他プライマリーケアやチーム医療のこと、泌尿器科いがいの科のことでも臨床上必要な知識を得て体験出来る場所に特徴があると考えられます。泌尿器科専門医の資格が採れるように経験を積んでもらう予定です。(当科は日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医教育施設 基幹教育施設の認定を受けています)